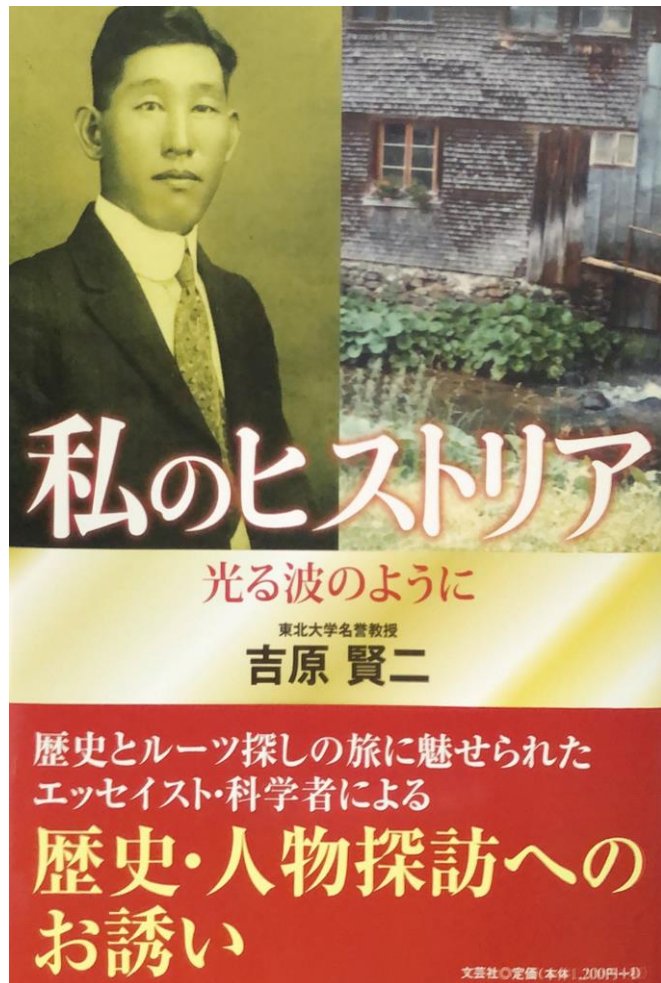


# 私のヒストリア 光る波のように

吉原 賢二

歴史は魅力あるものだが記録がなければ何時の間にか神話化されやすい。冷静公平な科学的立場の活用が必要である。著者は科学者エッセイストとして『魏志倭人伝』を考察、饒速日命と神武天皇の比較をおこない、卑弥呼の首都・副都論で多くの難点が克服できることを示した。これは邪馬台国北九州・近畿説の対立をアウフヘーベン（止揚）するものである。神武に比べ饒速日の子孫がはるかにすぐれた歴史伝承を残した。これは家系的にも実証された。



著者の前著『卑弥呼から神武へ』（文芸社、2014）との比較も重要なポイントとなるので参照されたい。新潟県「胎内市城の山古墳の発掘が当時の大和勢力最前線の模様を明らかにしてくれたものである。

（1200 円＋税 文芸社）